

稜線がつなぐまちづくり_前橋リッジライン

Ridge Line (リッジ-ライン) - [名詞] 稜線、一連の山のハイポイントを結んだ線、山の背



※上図は計画中であるため、今後内容が変更される可能性があります。

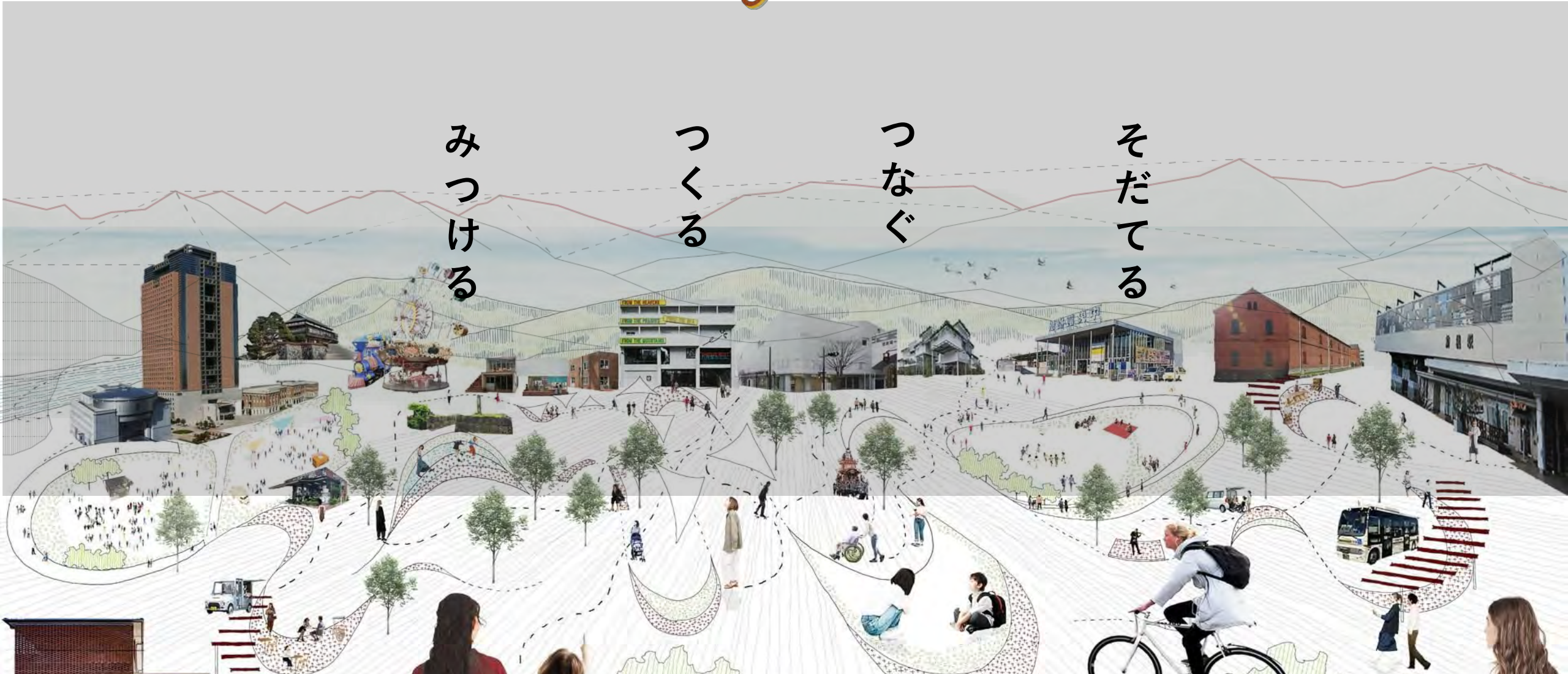
MAEBASHI *Ridgeline*

み
つ
け
る

つ
く
る

つ
な
ぐ

そ
だ
て
る



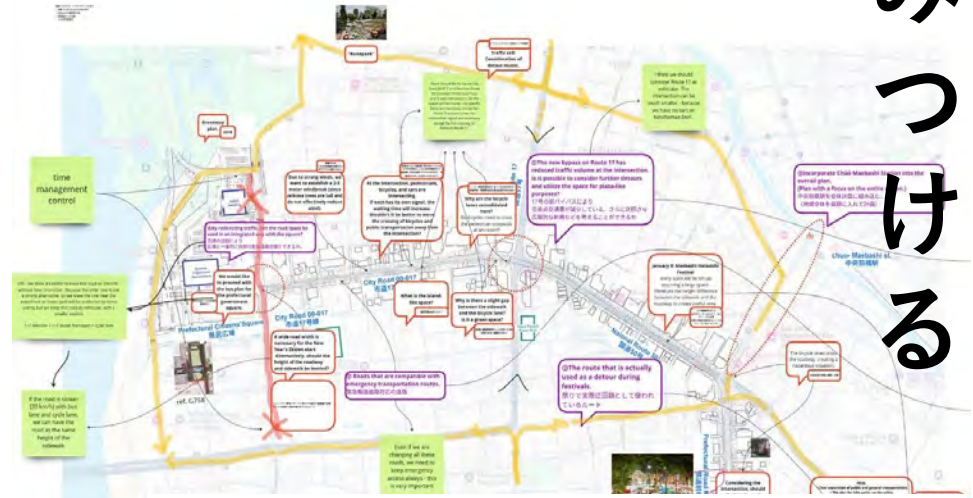
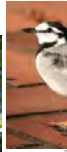
未来へ続くデザインの過程

前橋の風土に重なる経験のデザイン

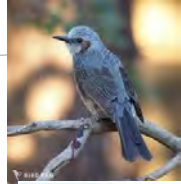
み
つ
け
る



豊富な自然環境
エコディストリクト



豊富な自然環境
エコディストリクト



日々の散歩



ローカルファースト、
官民連携のまちづくりの場



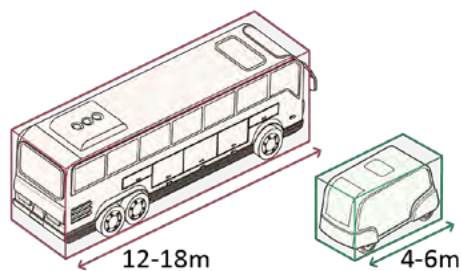
8. まちなかイベント (一例)

現状
現在、中心市街地ではまちの活性化や本市の魅力発信のため様々なイベントが開催されている。



賑わいが点から線へ、そして面的に広がるまちづくりへ

車両の実用性向上



小型車両



物体の位置を認識する車両

車両の多機能化



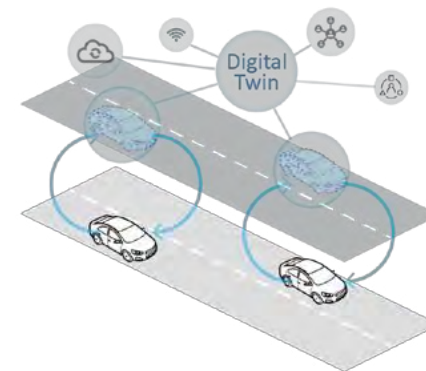
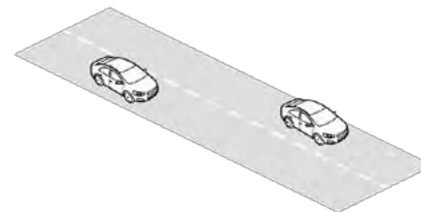
多機能車両



スマート信号システムの試験導入



需要対応型公共交通システム



需要対応型公共交通システム

330,000通りのリッジライン 風土と人をつなげるデザイン手法

Site1 : Street as Life [駅前広場 - 本町二丁目五差路交差点]

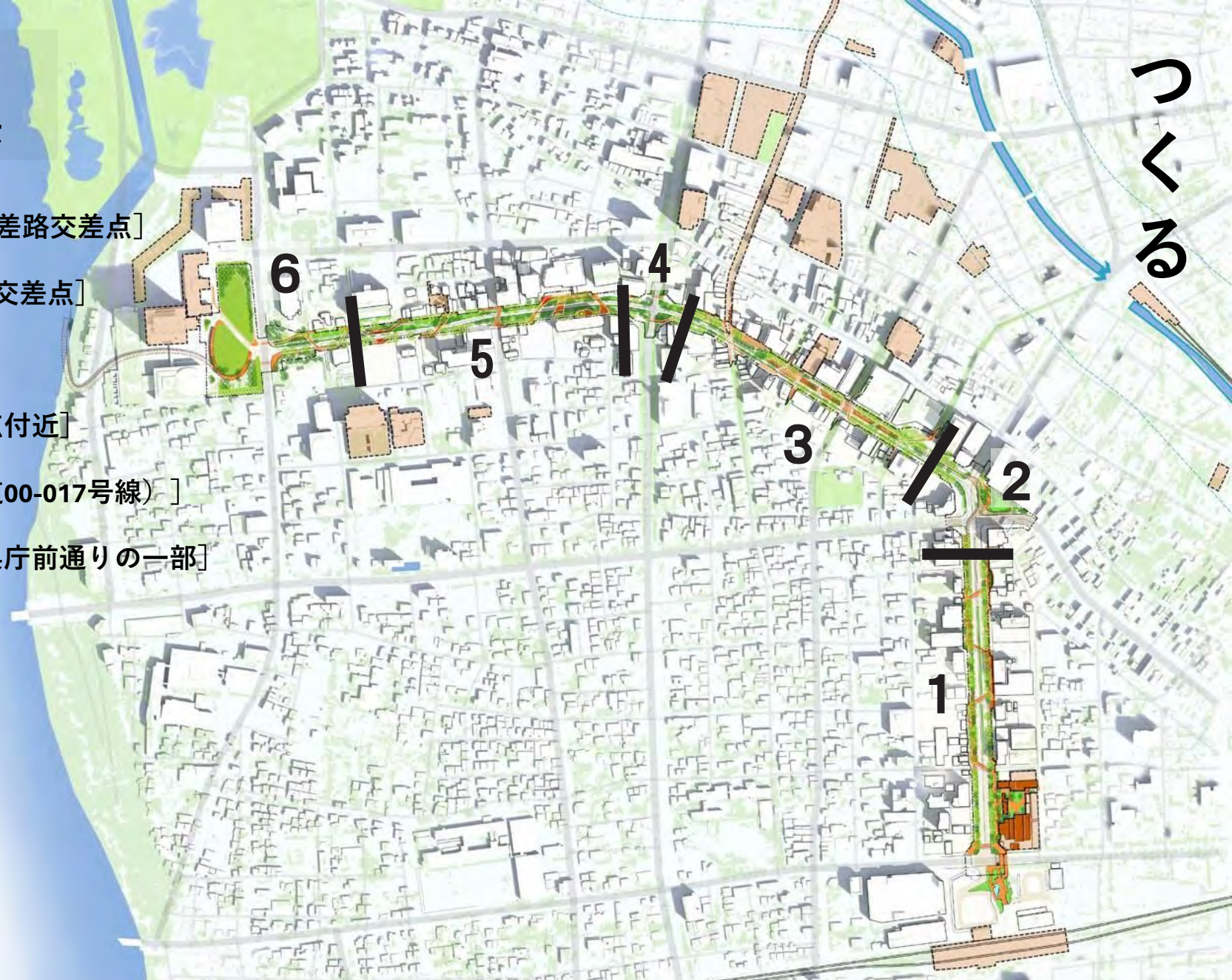
Site2 : Five crossing Plaza [本町二丁目五差路交差点]

Site3 : Civic Street [国道50号]

Site4 : Crossing in the Park [本町一丁目交差点付近]

Site5 : サイドパークエリア [県庁前通り (市道00-017号線)]

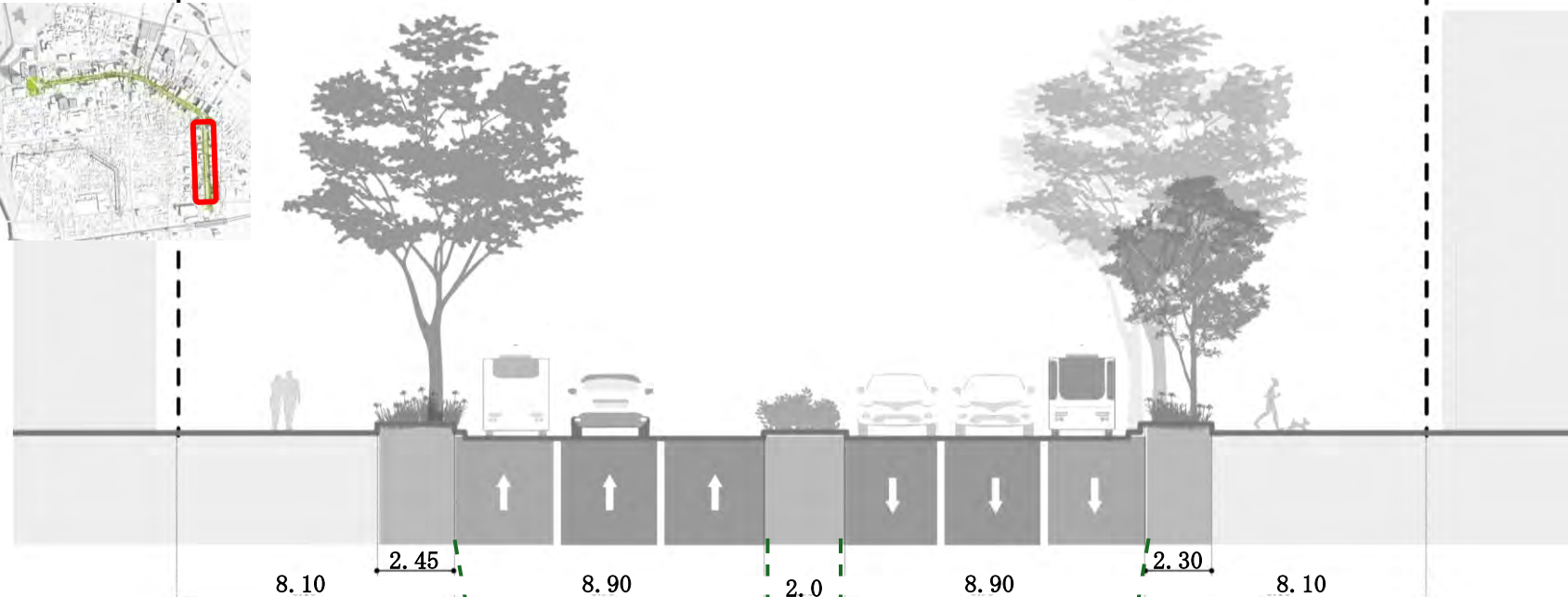
Site6 : マンモスグリーンエリア [県庁広場と県庁前通りの一部]



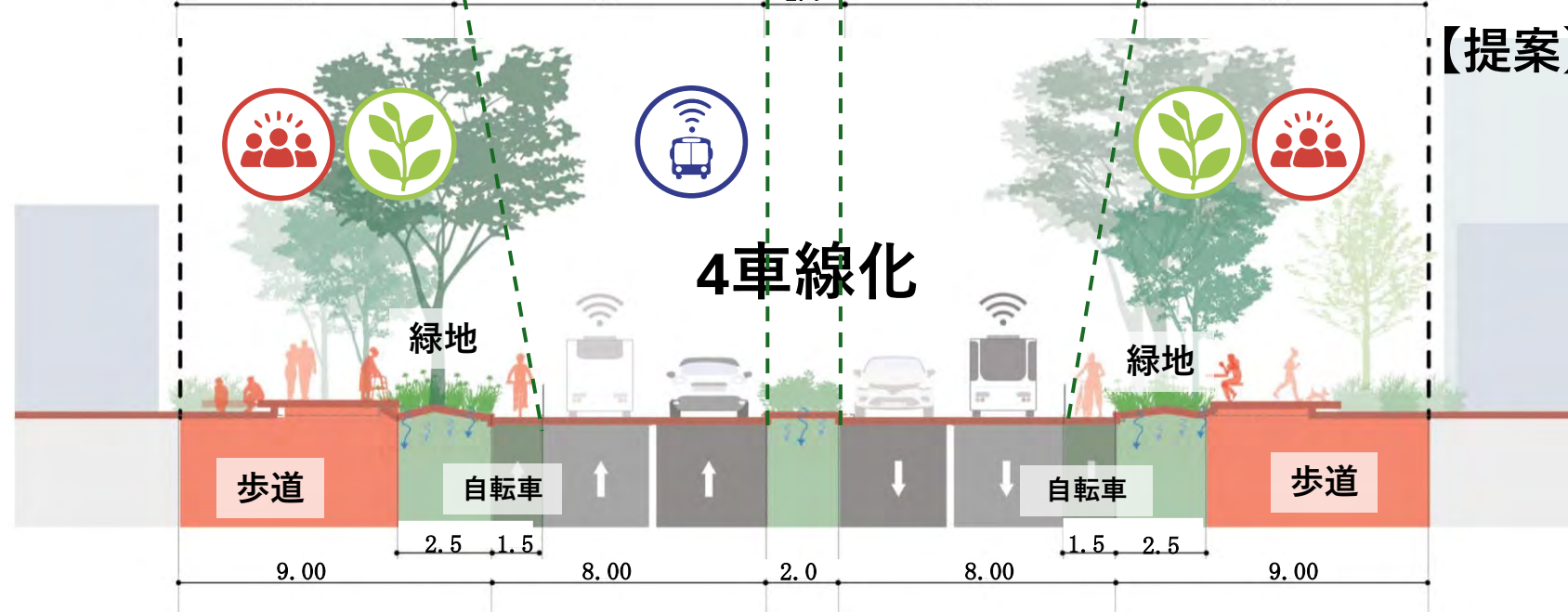
つくる

再生力、適応力、健康力のある前橋へ

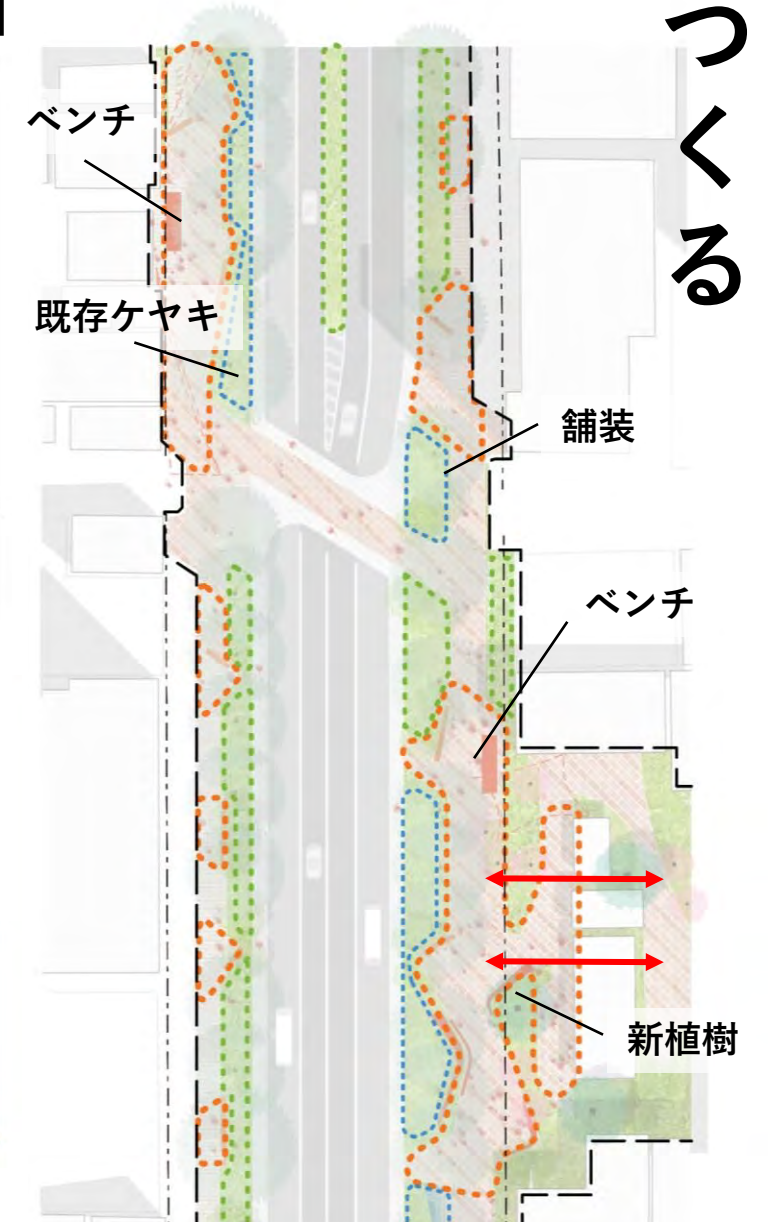
site 1 : Street as Life [駅前広場一本町二丁目五差路交差点]



【現状】



【提案】



歩道・緑地の拡幅

つくろ

site 1 : Street as Life [駅前広場一本町二丁目五差路交差点]

つくる

ランチステージ

自転車路とつながる
サイクルポケット

コミュニティ
ベンチ

親水スポット

site2 : Five crossing Plaza [本町二丁目五差路交差点]



つくる



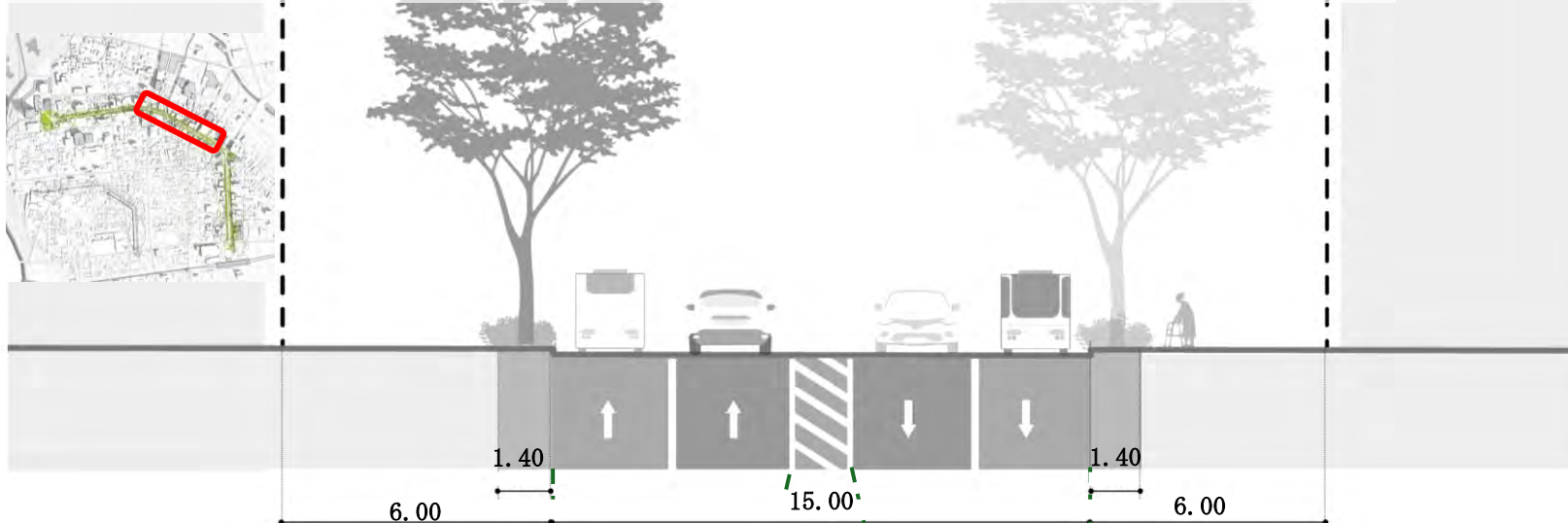
立体的につながる
創出広場

スロープ

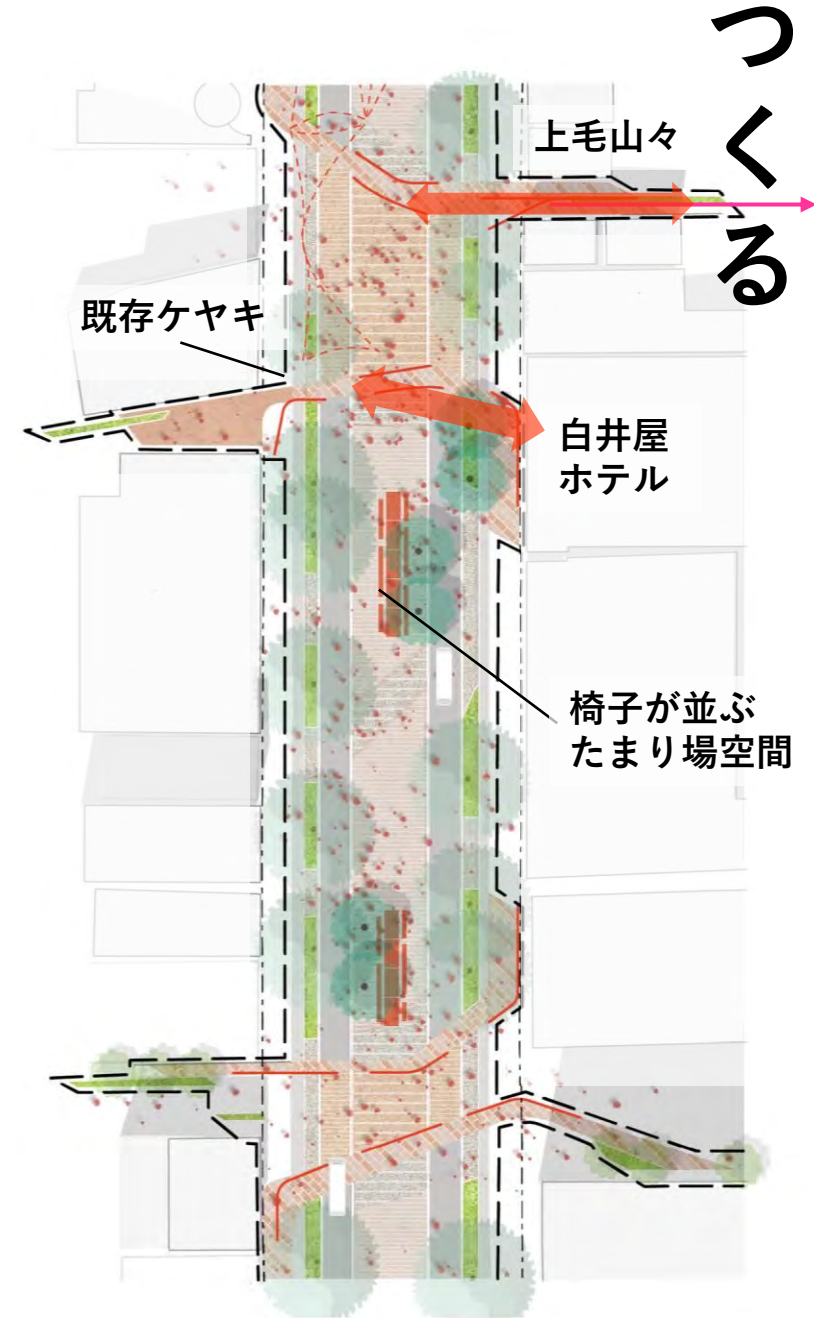
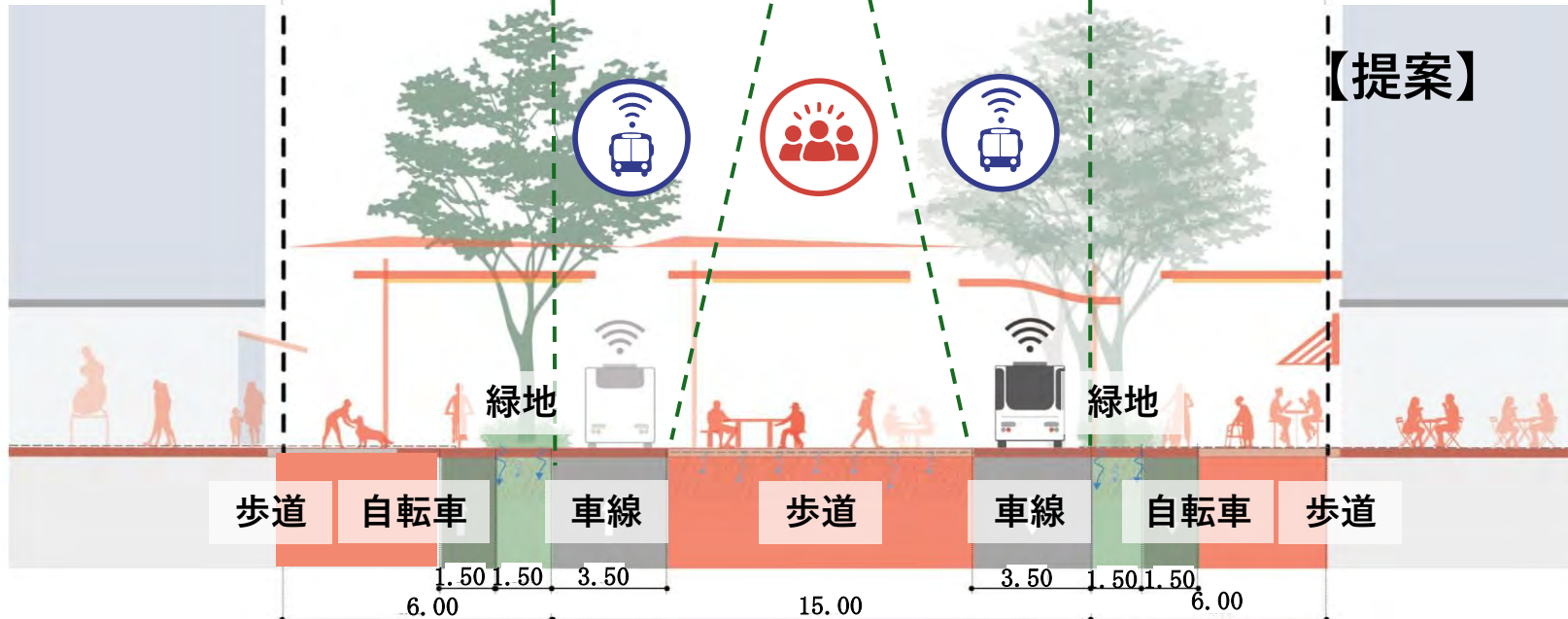
site3 : Civic Street [国道50号]

site4 : Crossing in the Park [本町一丁目交差点付近]

【現状】

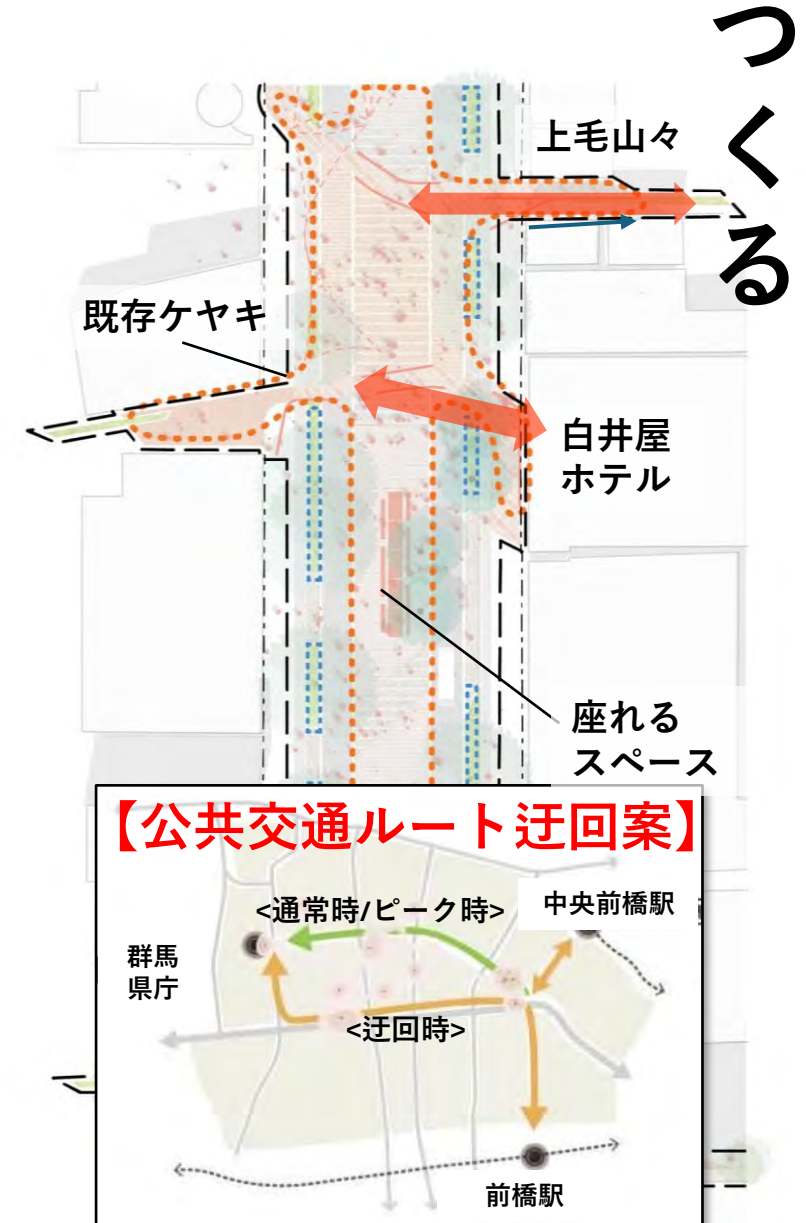
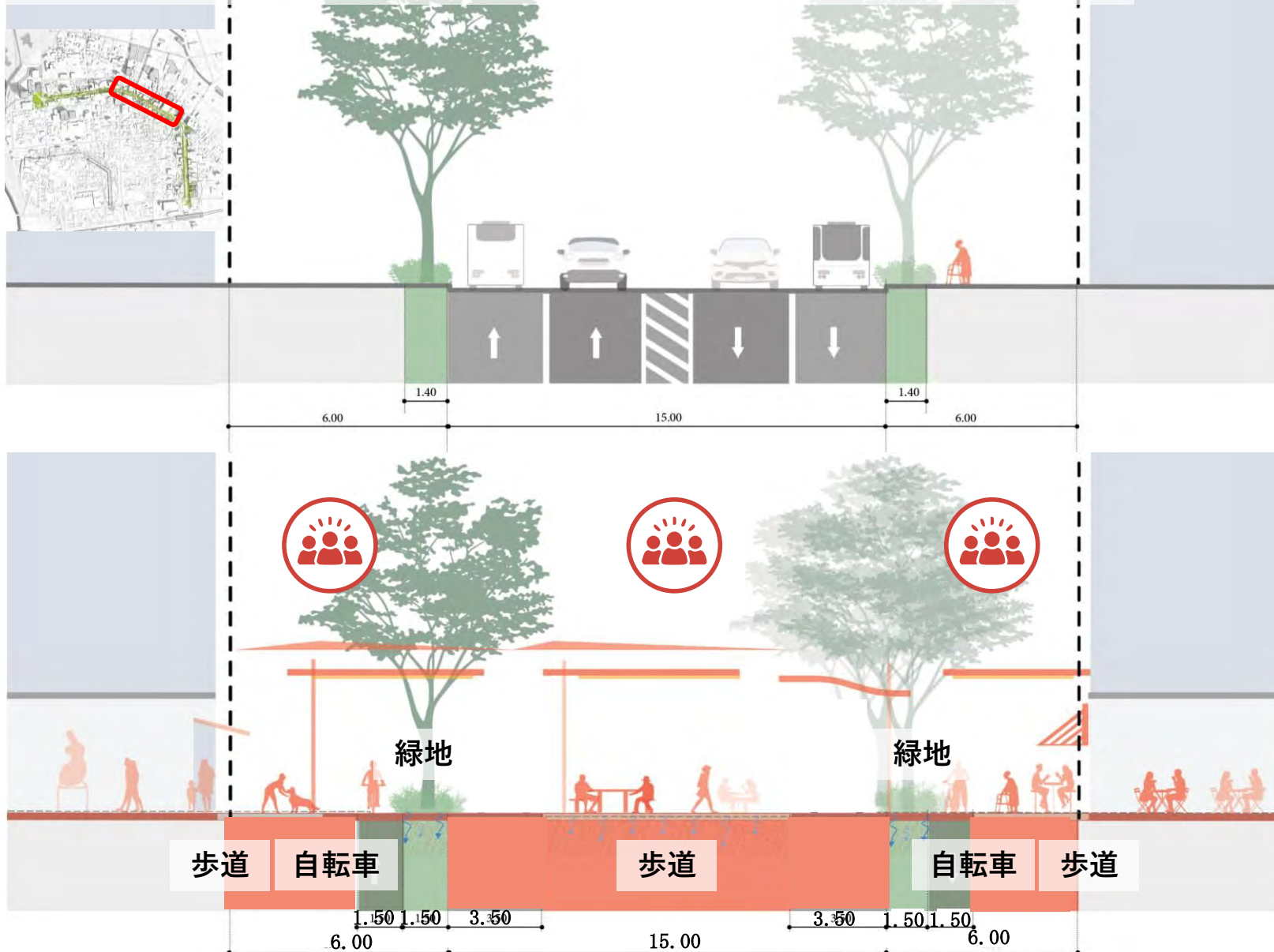


【提案】



site3 : Civic Street [国道50号]

site4 : Crossing in the Park [本町一丁目交差点付近]



歩道を拡張した空間活用

つくろ

site3 : Civic Street [国道50号]

site4 : Crossing in the Park [本町一丁目交差点付近]

つくる

仮設ルーフ

注水を利用した
ミストシャワー

白井屋ホテル

歩車が平坦な通り

白井屋ホテルのレンガ舗装と連続

site3 : Civic Street [国道50号]

site4 : Crossing in the Park [本町一丁目交差点付近]

つくる

仮設ルーフ

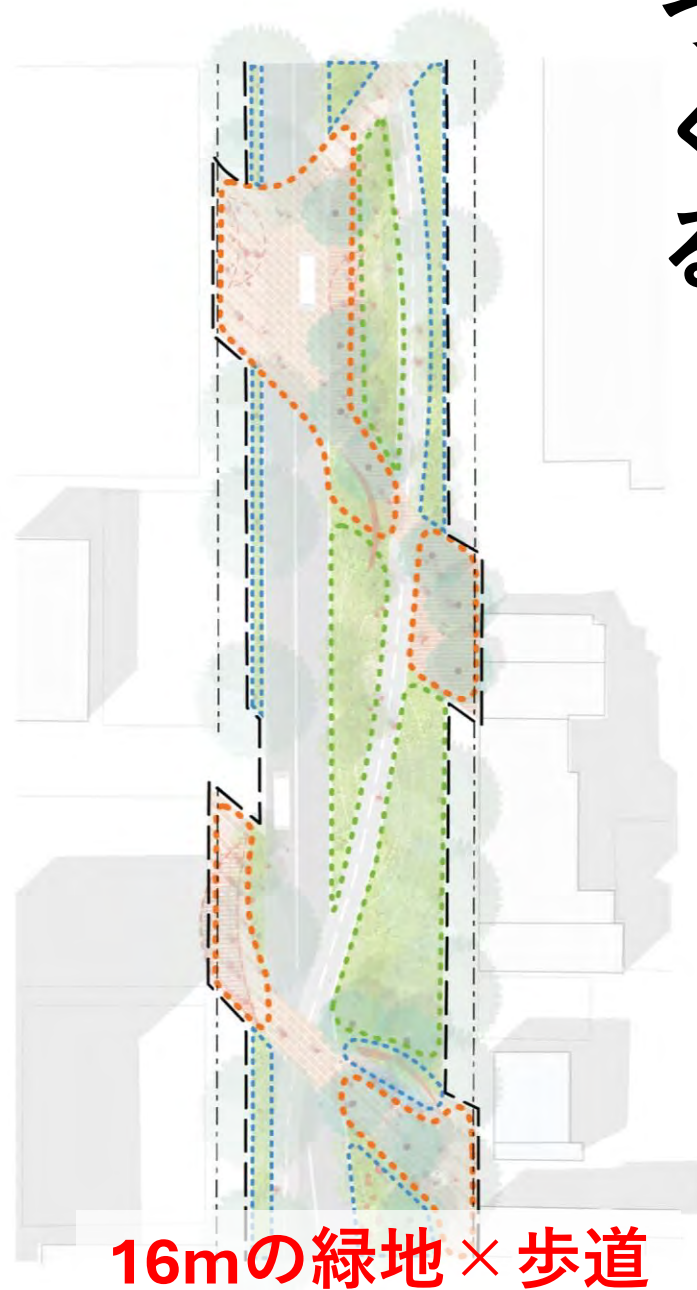
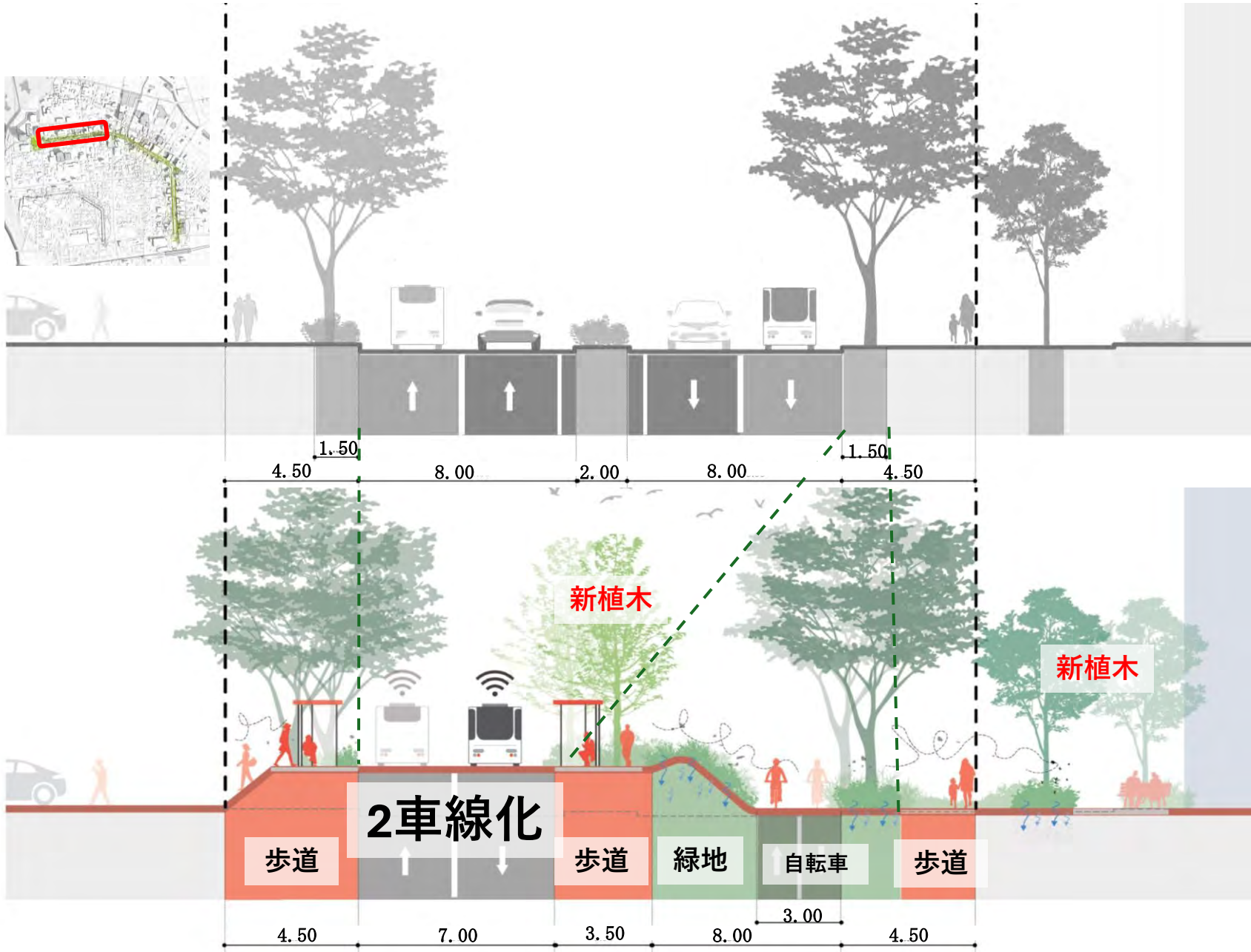
まちを照らす街灯。
"リッジライト"

緊急輸送道路の交通を
妨げない高さ設定

座れるたまり場

トイレ、充電スポットなどを
配備し、災害時にも対応

site5：サイドパークエリア [県庁前通り（市道00-017号線）]



つくろ

site5：サイドパークエリア [県庁前通り（市道00-017号線）]

つくる

大きな既存ケヤキと
小-中の新植樹

夏の暑さに対応する木陰空間

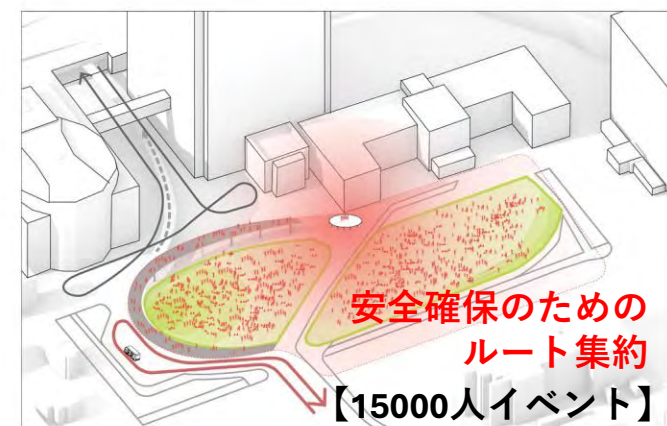
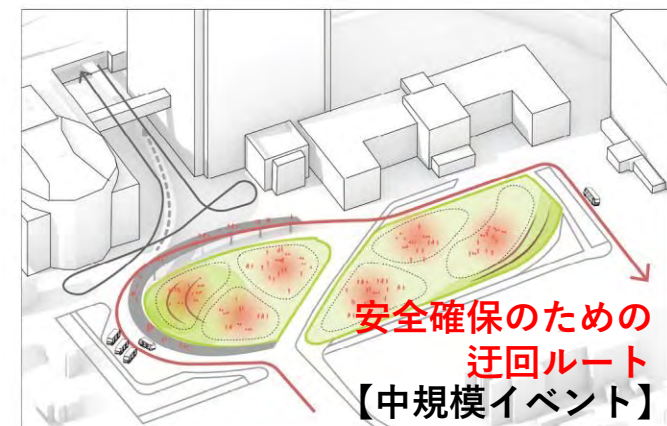
日よけになる居場所
バス停留所

親水広場
・雨水貯水庭として、
・秋は落ち葉溜まりとして

レンガの遊歩道

パーク（グリーン）近隣の集合住宅
周辺価値の向上

site6 : マンモスグリーンエリア [県民広場と県庁前通りの一部]



つくる

| site6 : マンモスグリーン広場 [県民広場と県庁前通りの一部]

つくる



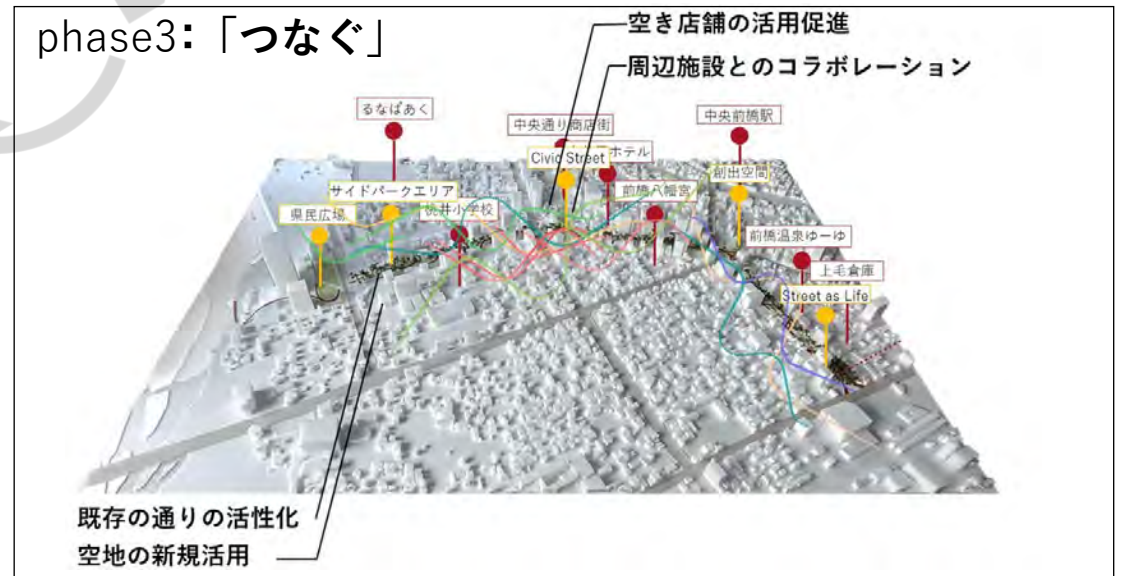
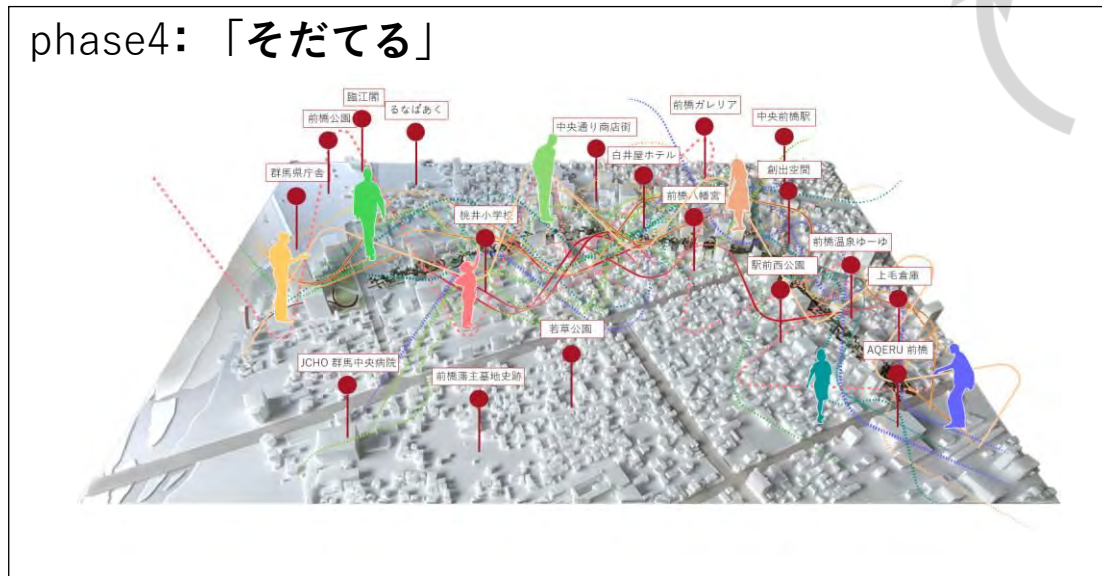
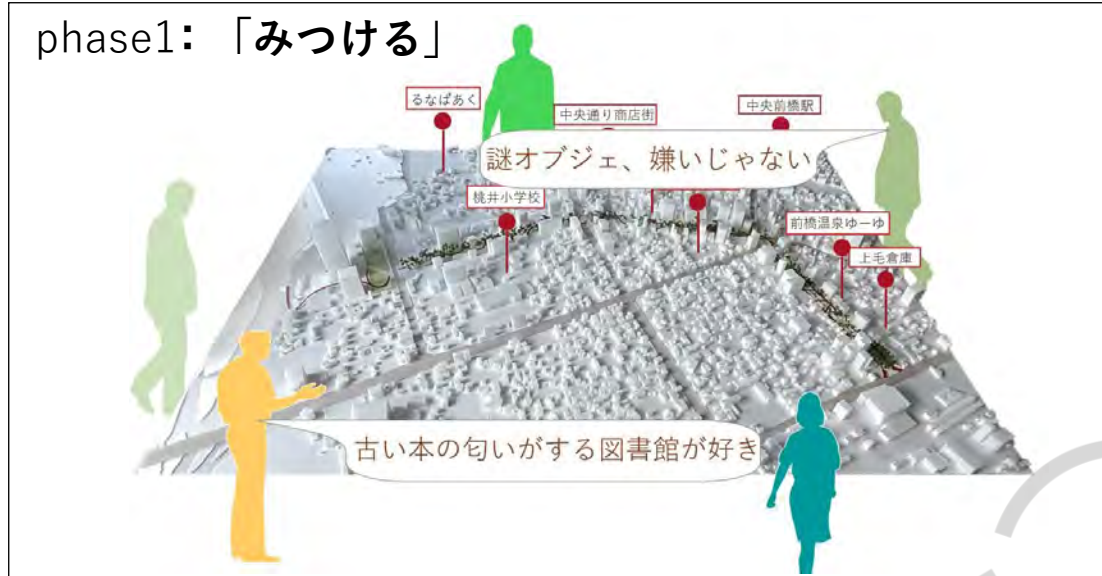
つなぐ



SITE 1

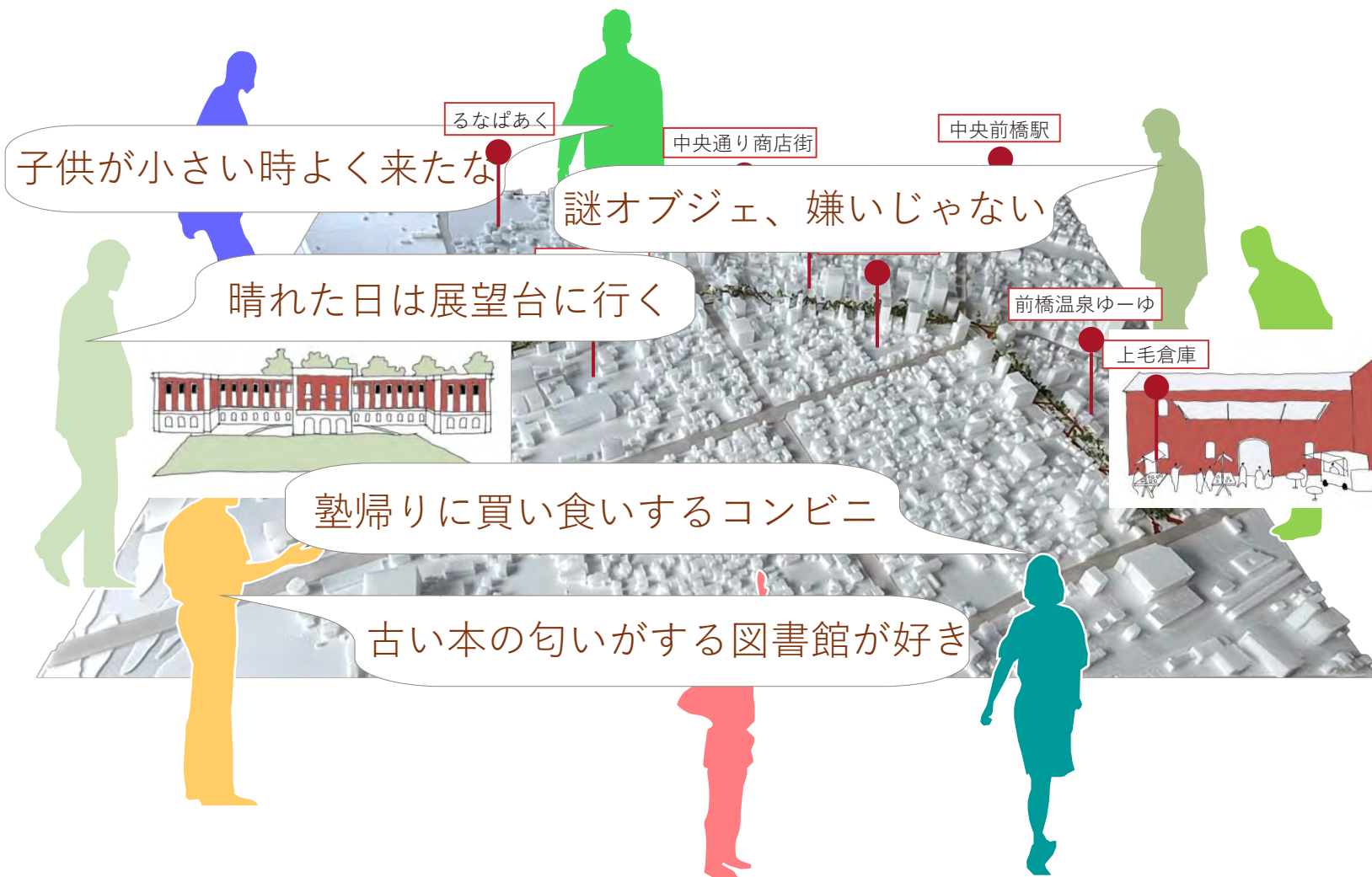
前橋クリエイティブシティを実現する、終わりのないサイクル

そだてる

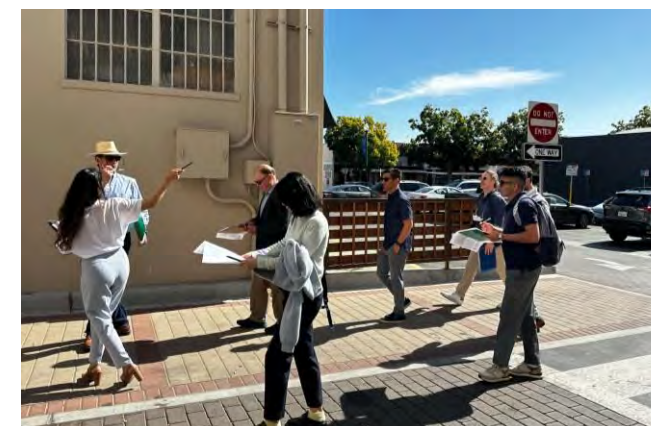


phase 1 : 「みつける」

そだてる



市民ハイポイントを聞く「みつける」WS



通りを歩いて回る「みつける」WSのイメージ

2025

2026

2040

Phase1 : みつける ▶

Phase2: つくる ▶

Phase3: つなぐ ▶

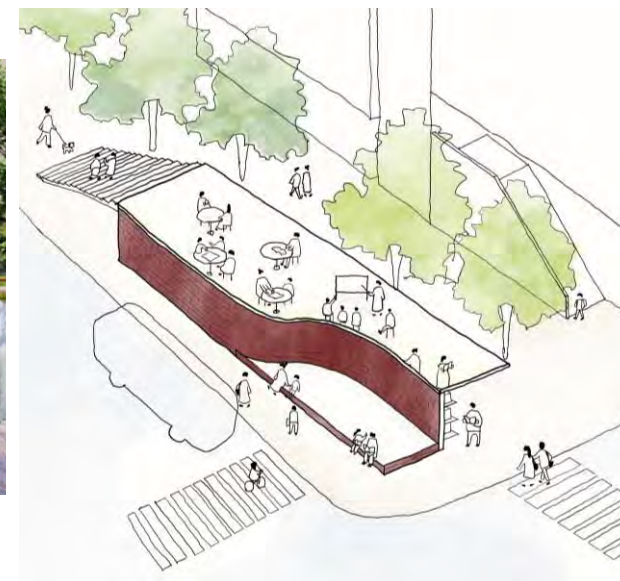
Phase4: そだてる ▶

Phase1 : みつける ▶ Phase2: つくる ▶ ...

phase 2: 「つくる」



飲食店と連携する「まちなかキッチン」



バスストップ×ランチスペース

2025

2026

2040

Phase1: みつける ▶

Phase2: つくる ▶

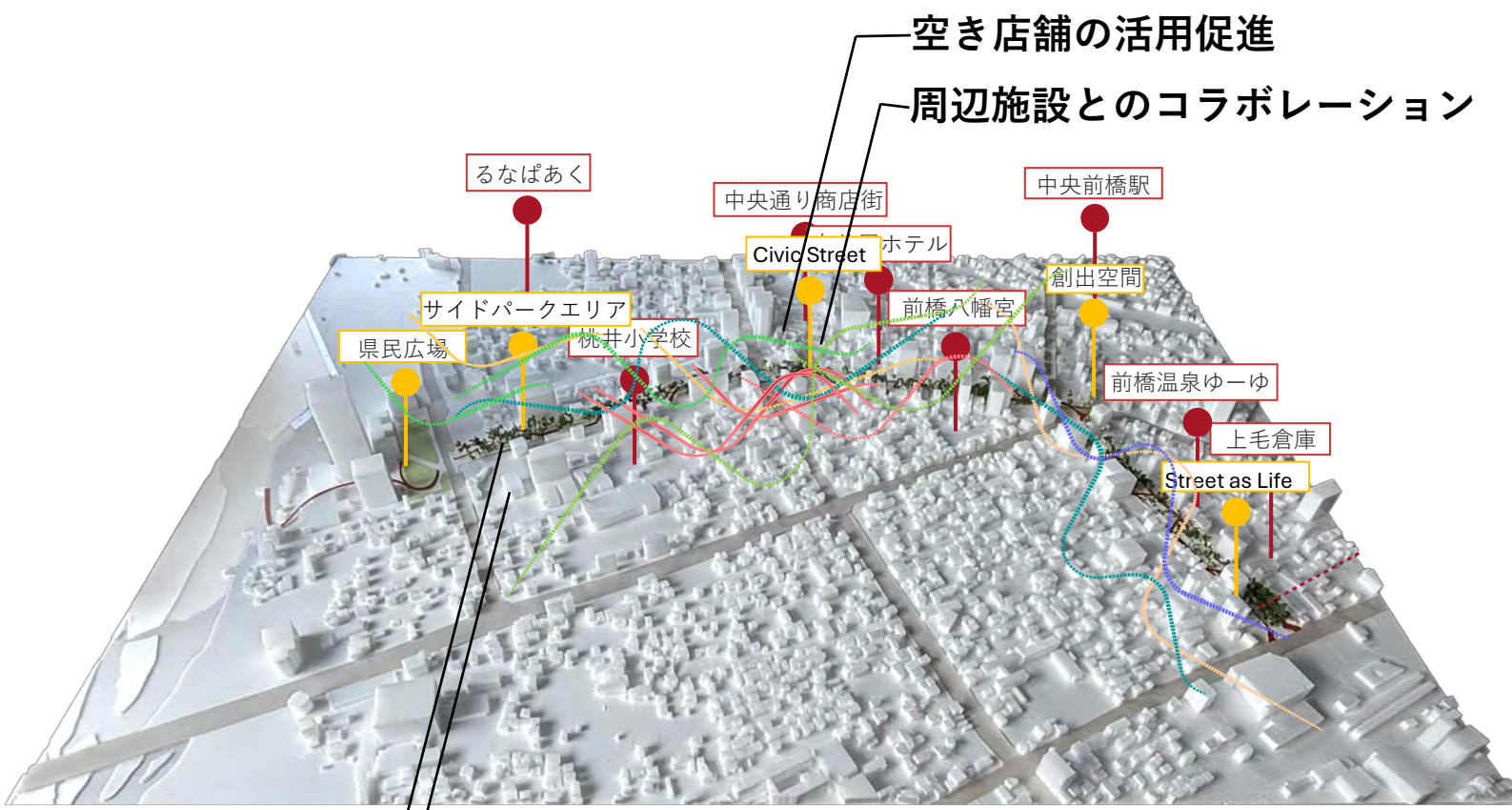
Phase3: つなぐ ▶

Phase4: そだてる ▶

Phase1: みつける ▶ Phase2: つくる ▶ ...

phase 3 : 「つなぐ」

そだてる



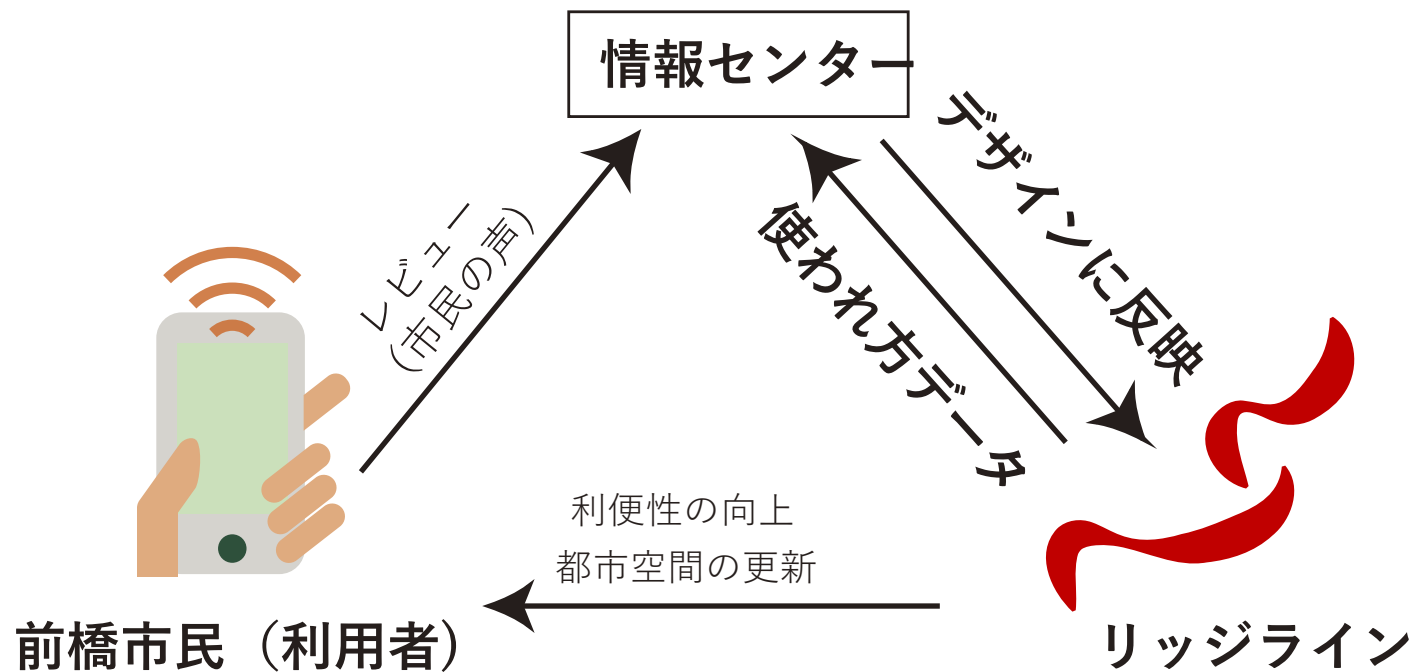
商店街を拡張したコラボレーション企画



沿道の駐車場などの利活用を検討

phase 3 : 「つなぐ」

そだてる



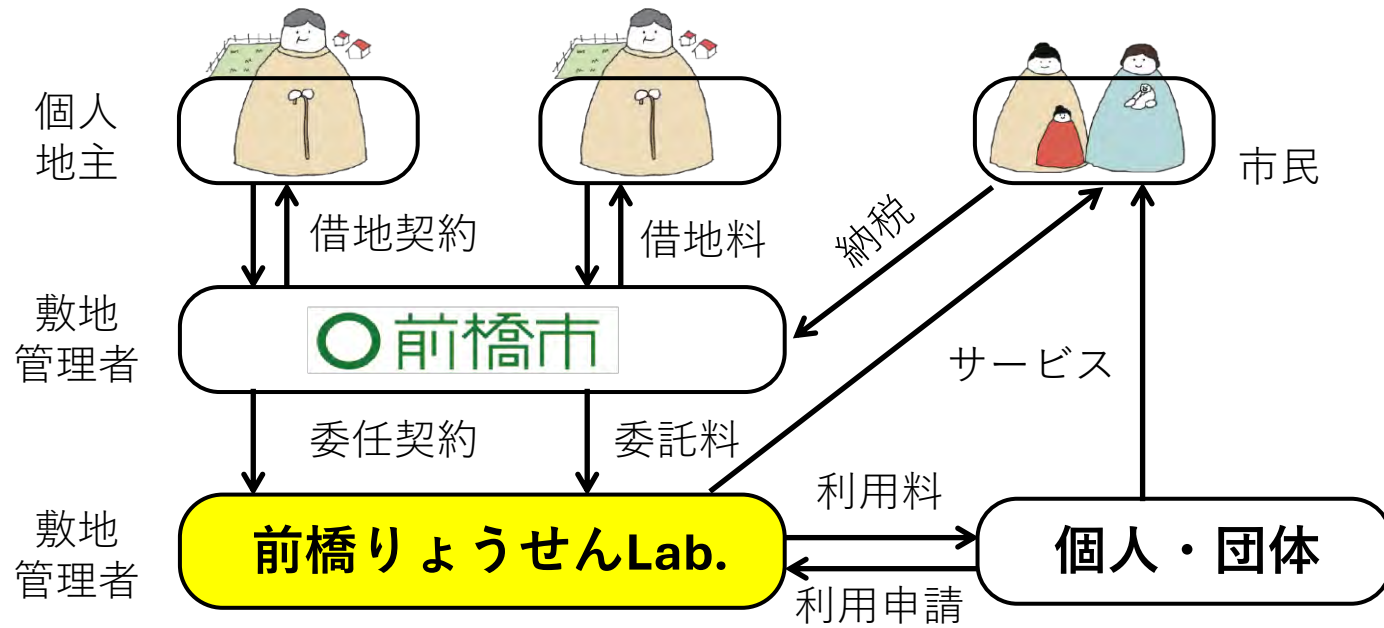
商店街を拡張したコラボレーション企画



沿道の駐車場などの利活用を検討

phase 3 : 「つなぐ」

そだてる



商店街を拡張したコラボレーション企画

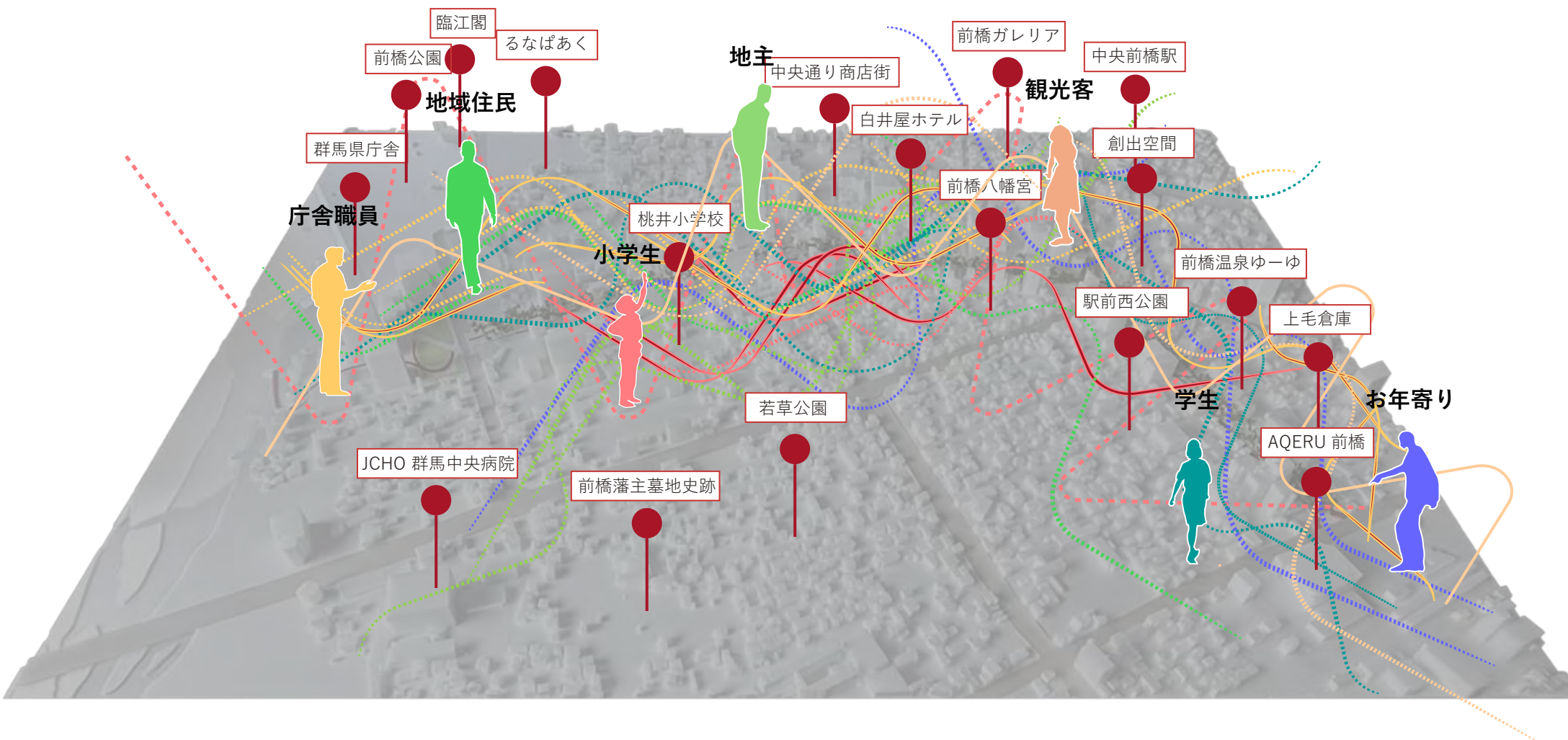


沿道の駐車場などの利活用を検討

これまでの取り組みと連動し**既存施設とのコラボレーション、空地、空家の利活用の促進**を図ります。

phase 4 : 「そだてる」

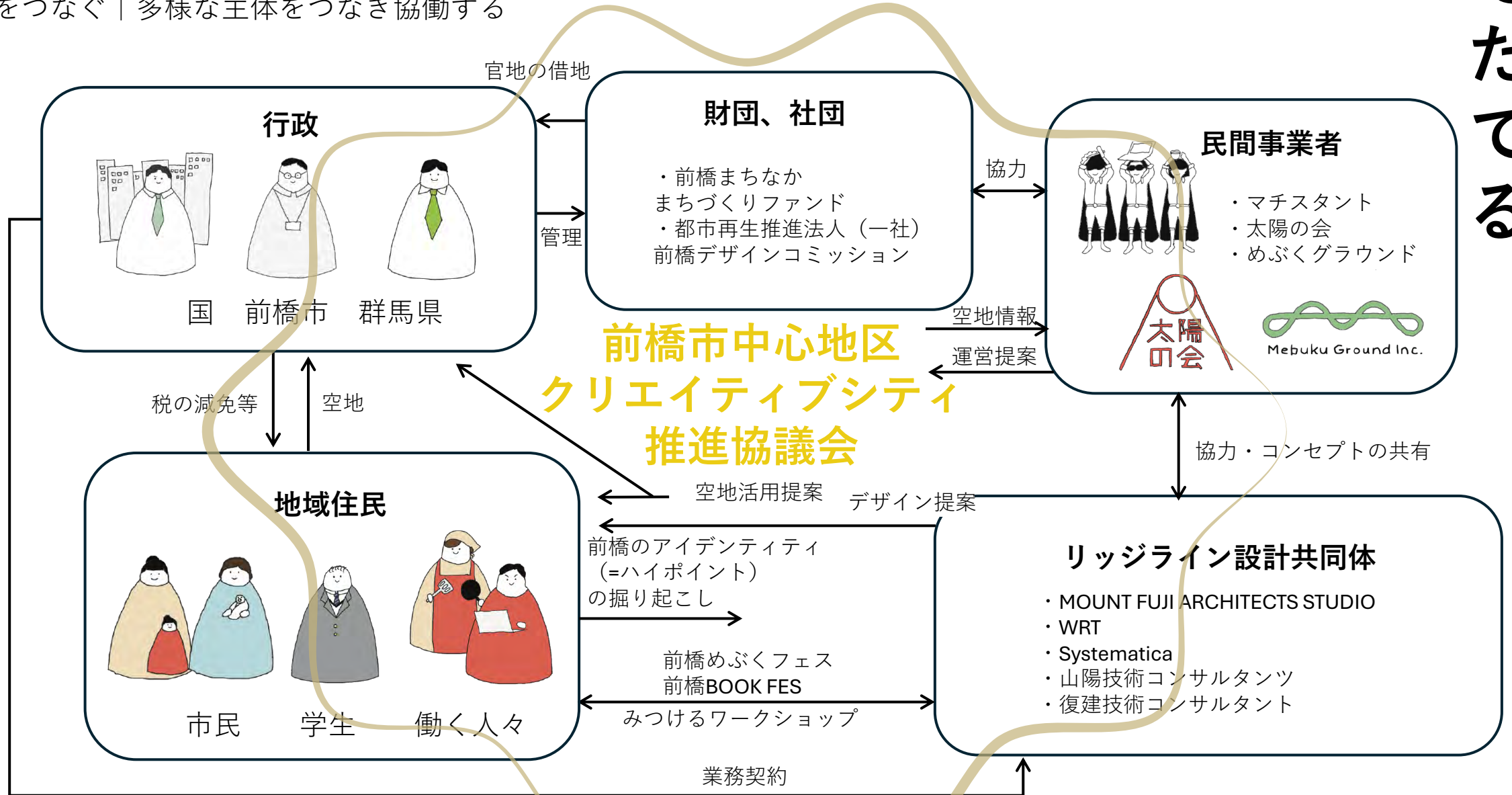
そだてる



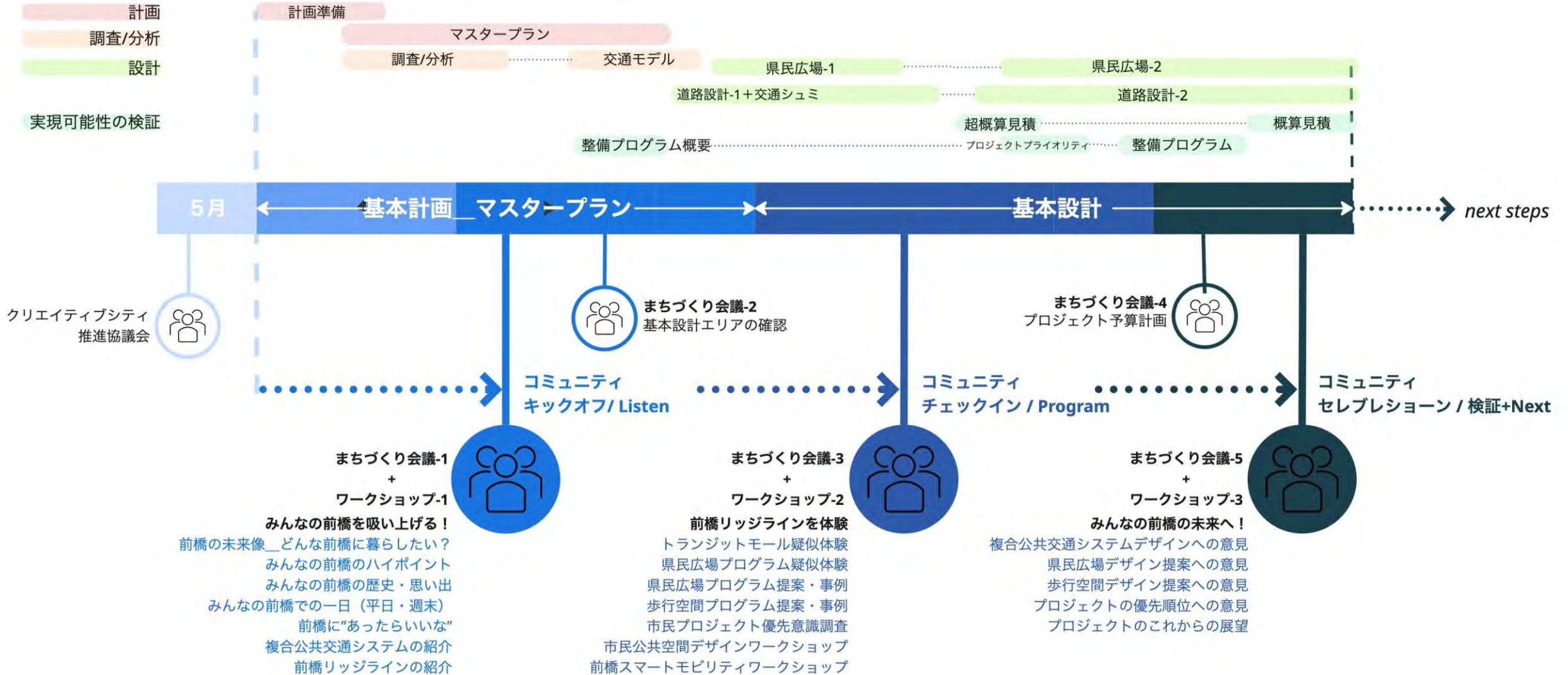
ヒト・モノ・コトを”つなく”持続的な体制構築

ヒトをつなぐ | 多様な主体をつなぎ協働する

そだてる



計画表＋業務内容



- 交** 交通 : 交通処理の方法や技術
- 地** 地域 : 地域固有の価値やコミュニティ、風土
- 環** 環境 : 環境負荷の低減、居住環境整備
- 災** 災害 : BCP 対応等
- コ** コスト : イニシャルコスト、ランニングコスト低減

PTPS (公共車両優先システム)

公共交通の定時性と利便性を向上することで、車に依存しないまちづくりを推進します。

ライジングボラード

公共交通の定時性と利便性を向上することで、車に依存しないまちづくりを推進します。

ブリッジ

健康者にとっても障がい者にとってもウォーカブルな街になるように、安全に歩道間を行き来できる歩道橋を計画します。将来の様々なマイクロモビリティの移動にも対応します。

サイン計画

見やすく直感的なサイン計画とすることで、歩行者だけでなく自転車やその他様々なモビリティからでもわかりやすい計画とします。

モビリティハブ

各バス停にシェアサイクルポートを設置し、モビリティハブとすることで、地域のアクセシビリティを向上します。また、乗り換え時に発生するちょっとした時間で周辺エリアとのコミュニケーションが図れるような工夫をちりばめています。

キャノピー・パーゴラ

夏でも歩行者を酷暑から守り、ウォーカブルな街を実現するために、キャノピーやパーゴラを計画します。冬は仮想的に風よけを設けることでバスで待つ人や送迎を待つ人を北風から守ります。

ドライミスト・打ち水

バス停等に設置して、蒸散効果で温度を下げます。また、歩道への打ち水で効果的に歩行空間の環境を整えます。

防災用ファニチャー

かまどベンチやコンセントポールを設置して、災害時のレジリエンスを向上します。マエバシバルストリート等のイベント時にも積極的に利用し、地域の防災意識を高めます。

カーブサイドコミュニティ

送迎時の車寄せや駐車スペース。将来、自動運転レベル5が実装されると、人だけではなくモノが移動する時代。青空カフェやライブラリーなどのコミュニティが形成されます。

けやきの保存

既存のけやきを残す計画とします。十分な広さの植栽帯を設け、必要に応じて根元を覆い保護します。

中低木

既存のけやきと併せて、冬の強い北風から歩行者を守ります。新植樹木は落葉植栽とすることで地域特有の風景をつくります。

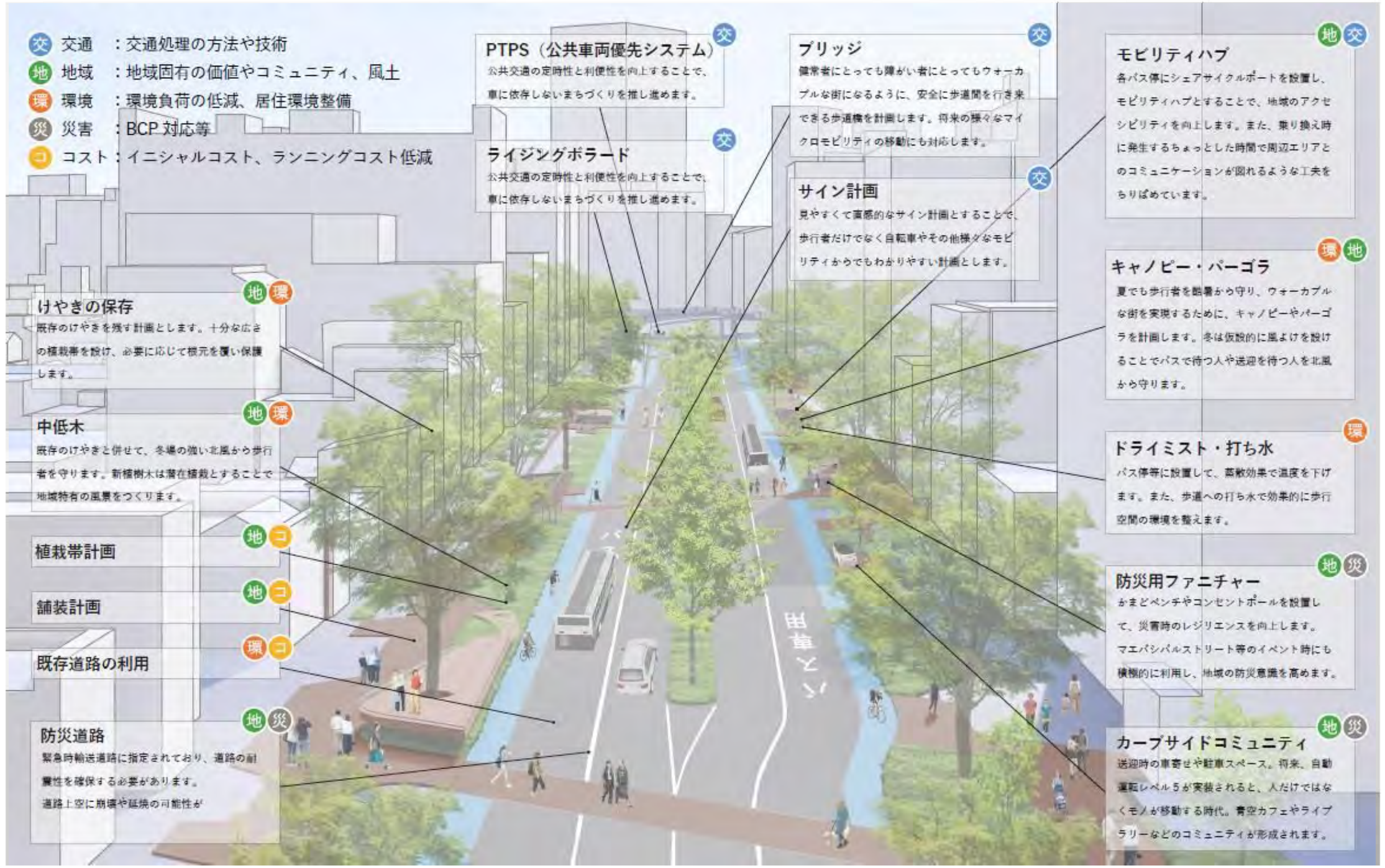
植栽帯計画

舗装計画

既存道路の利用

防災道路

緊急時輸送道路に指定されており、道路の耐震性を確保する必要があります。道路上空に崩壊や延焼の可能性が



- 交 交通 : 交通処理の方法や技術
- 地 地域 : 地域固有の価値やコミュニティ、風土
- 環 環境 : 環境負荷の低減、居住環境整備
- 災 災害 : BCP 対応等
- コ コスト : イニシャルコスト、ランニングコスト低減

PTPS (公共車両優先システム)

公共交通の定時性と利便性を向上することで、車に依存しないまちづくりを推進します。

ライジングボラード

公共交通の定時性と利便性を向上することで、車に依存しないまちづくりを推進します。

ブリッジ

健常者にとっても障がい者にとってもウォークアブルな街になるように、安全に歩道間を行き来できる歩道橋を計画します。将来の様々なマイクロモビリティの移動にも対応します。

サイン計画

見やすく直感的なサイン計画とすることで、歩行者だけでなく自転車やその他の様々なモビリティからでもわかりやすい計画とします。

モビリティハブ

各バス停にシェアサイクルポートを設置し、モビリティハブとすることで、地域のアクセシビリティを向上します。また、乗り換え時に発生するちょっとした時間で周辺エリアとのコミュニケーションが図れるような工夫をちりばめています。

キャノピー・パーゴラ

夏でも歩行者を酷暑から守り、ウォークアブルな街を実現するために、キャノピーやパーゴラを計画します。冬は仮想的に風よけを設けることでバスで待つ人や送迎を待つ人を北風から守ります。

ドライミスト・打ち水

バス停等に設置して、蒸散効果で温度を下げます。また、歩道への打ち水で効果的に歩行空間の環境を整えます。

防災用ファニチャー

かまどベンチやコンセントポールを設置して、災害時のレジリエンスを向上します。マエパシバルストリート等のイベント時にも積極的に利用し、地域の防災意識を高めます。

カーブサイドコミュニティ

送迎時の車寄せや駐車スペース。将来、自動運転レベル5が実装されると、人だけではなくモノが移動する時代。青空カフェやライブラリーなどのコミュニティが形成されます。

けやきの保存

既存のけやきを残す計画とします。十分な広さの植栽帯を設け、必要に応じて根元を覆い保護します。

中低木

既存のけやきと併せて、冬場の強い北風から歩行者を守ります。新植樹木は潜在植栽とすることで地域特有の風景をつくります。

植栽帯計画

舗装計画

既存道路の利用

防災道路

緊急時輸送道路に指定されており、道路の耐震性を確保する必要があります。道路上空に崩壊や延焼の可能性が

稜線がつなぐまちづくり _ 前橋リッジライン

Ridge Line(リッジ-ライン)- [名詞] 稜線、一連の山のハイポイントを結んだ線、山の背

